



フェアな価格 確かな信頼

ローリーラック

Lorry Rack

☆RIM LORRY RACK PRICE INTELLIGENCE DAILY

★NO. 4889 Jan 30 2019

Copyright (C) 2019 RIM Intelligence Co. All Rights Reserved.

東京時間2019年1月30日水曜日17時30分<Assessment Closing Time>

「リム価格」は登録商標です 登録番号・第5387777号

「4リム価格」は登録商標です 登録番号・第5660925号

「リムラック価格」は登録商標です 登録番号・第5660926号

◎お知らせ

○アセスメントの追加と変更について

2月1日からアセスメントの一部を変更します。

【川崎地域】

川崎製油所出しのアセスメント適用対象に「根岸」を参考として追加します。

○『改訂版 やさしい石油精製の本』発刊

リム情報開発は昨年12月3日、エネルギー入門書シリーズ『改訂版 やさしい石油精製の本』を発刊いたしました。昨年8月に発売した初版本が好評につき完売となりましたことから、脱硫方法の1つであるスウィートニング処理の項目を補足で追加し、このほど改訂版として発刊する運びとなりました。石油業界に携わってまだ日の浅い方を念頭に、原油の特性、製油所の各設備の仕組み、原油から石油製品を精製する方法、石油製品の特徴などをわかりやすく解説しています。また、業界でベテランと呼ばれるような人が、「いまさら聞けない」内容をあらためて確認していただく虎の巻としても活用いただけます。石油トレーダー、製油所のエンジニア、石油業界に興味のある学生・多くの皆さまのお役に立つ情報満載です。是非お求めください。《A4版、1,200円(消費税、送料別)。詳細は以下のURLを御覧ください》

<https://www.rim-intelligence.co.jp/contents/info/petrobook/>

◎リムエネルギー総合指数22種(レックス22、2010年平均=100)

30日のレックス22は、前日から0.58ポイント下落し92.60です

-----リムレポートのご紹介-----

リム情報開発のレポートラインアップは、下記のURLからアクセスください。各レポートのサンプルに加え、内容についての詳細な説明がご覧いただけます。

<https://www.rim-intelligence.co.jp/first/report>

ラインアップ:

原油・コンデンセート	アジア石油製品	バンカーオイル
ローリーラック(国内陸上)	ジャパン石油製品(国内海上)	LPG
石油化学	ポリオレフィン	LNG
電力	デイリーデータ	Rim Data File

上記に関するお問い合わせはこちらまで

TEL 03-3552-2411

E-mail info@rim-intelligence.co.jp

東京時間2019年1月30日水曜日17時30分<Assessment Closing Time>

◎東名阪製油所出しローリーラック市況 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	千葉	中値	前日比	川崎	中値	前日比	京浜中値	前日比
ガソリン	54.9 ~ 55.5	55.20	0.00	54.7 ~ 55.5	55.10	0.00	55.15	0.00
灯油	58.8 ~ 59.3	59.05	0.00	58.8 ~ 59.3	59.05	0.00	59.05	0.00
課税軽油	56.9 ~ 57.6	57.25	0.00	56.9 ~ 57.6	57.25	0.00	57.25	0.00
未課税軽油	59.0 ~ 59.5	59.25	0.00	59.0 ~ 59.5	59.25	0.00	59.25	0.00
A重油	57.3 ~ 57.8	57.55	0.00	57.3 ~ 57.8	57.55	0.00	57.55	0.00
LSA重油	57.4 ~ 57.8	57.60	0.00	57.2 ~ 57.8	57.50	0.00	57.55	0.00

油種	中京	中値	前日比	阪神	中値	前日比	4リム中値	前日比
ガソリン	54.7 ~ 55.2	54.95	0.00	53.9 ~ 54.3	54.10	0.00	54.84	0.00
灯油	59.2 ~ 59.7	59.45	0.00	58.7 ~ 59.0	58.85	0.00	59.10	0.00
課税軽油	57.5 ~ 58.3	57.90	0.00	57.2 ~ 57.7	57.45	-0.05	57.46	-0.02
未課税軽油	59.4 ~ 60.0	59.70	0.00	59.0 ~ 59.5	59.25	0.00	59.36	0.00
A重油	57.5 ~ 58.5	58.00	0.00	57.5 ~ 58.0	57.75	0.00	57.71	0.00
LSA重油	58.0 ~ 59.0	58.50	0.00	58.0 ~ 58.5	58.25	0.00	57.96	0.00

◎東名阪油槽所出しローリーラック市況 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	八潮	中値	前日比	横浜	中値	前日比	京浜中値	前日比
ガソリン	55.0 ~ 56.0	55.50	-0.80	57.2 ~ 57.7	57.45	0.00	56.48	-0.40
灯油	59.8 ~ 60.0	59.90	-0.40	58.9 ~ 59.1	59.00	-1.05	59.45	-0.73
軽油	58.0 ~ 59.0	58.50	-0.50	60.5 ~ 61.0	60.75	0.00	59.63	-0.25
A重油	58.5 ~ 58.7	58.60	+0.10	59.0 ~ 59.5	59.25	0.00	58.93	+0.05
LSA重油	58.5 ~ 58.7	58.60	+0.10	59.5 ~ 60.0	59.75	0.00	59.18	+0.05

油種	中京	中値	前日比	阪神	中値	前日比	油槽所中値	前日比
ガソリン	54.7 ~ 55.2	54.95	0.00	53.7 ~ 54.5	54.10	0.00	55.50	-0.20
灯油	59.5 ~ 60.0	59.75	-0.15	58.5 ~ 59.0	58.75	0.00	59.35	-0.40
軽油	59.0 ~ 60.0	59.50	0.00	57.2 ~ 58.2	57.70	-0.10	59.11	-0.15
A重油	58.2 ~ 59.0	58.60	0.00	57.7 ~ 58.2	57.95	0.00	58.60	+0.02
LSA重油	58.7 ~ 59.5	59.10	0.00	58.2 ~ 58.7	58.45	0.00	58.98	+0.03

※前日比は中値ベース

※製油所の京浜中値は千葉・川崎中値の単純平均値

※4リム中値は千葉・川崎・中京・阪神製油所の単純平均値

※油槽所の京浜中値は八潮、横浜中値の単純平均値

※油槽所中値は八潮、横浜、中京、阪神の単純平均値

※ローリーラック価格、輸入採算価格、海陸市況格差、先物のガソリンはレギュラーが対象で揮発油税53.8円を含まず

※軽油は軽油引取り税32.1円を含まず

※中値は小数点第3位を四捨五入

※原油輸入平均CIF価格の r は修正

※為替は三菱UFJ銀行が午前10時30分に発表する数値を使用

◎東名阪製油所・油槽所出し中値平均値 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	京浜地区	前日比	中京地区	前日比	阪神地区	前日比
ガソリン	55.81	-0.20	54.95	0.00	54.10	0.00
灯油	59.25	-0.36	59.60	-0.08	58.80	0.00
軽油	58.71	-0.08	59.03	0.00	58.13	-0.05
A重油	58.24	+0.03	58.30	0.00	57.85	0.00
LSA重油	58.36	+0.02	58.80	0.00	58.35	0.00

◎その他の製油所・油槽所出しローリーラック市況 (EXパイプ、円/リットル、サイト30日以内)

油種	北海道	中値	前日比	仙台	中値	前日比
ガソリン	57.7 ~ 58.7	58.20	0.00	58.2 ~ 58.5	58.35	0.00
灯油	59.4 ~ 60.0	59.70	-0.20	59.6 ~ 60.3	59.95	-0.05
軽油	59.5 ~ 60.5	60.00	+0.10	59.0 ~ 60.0	59.50	0.00
A重油	58.5 ~ 59.2	58.85	0.00	58.0 ~ 58.2	58.10	0.00
LSA重油	59.0 ~ 59.7	59.35	0.00	58.5 ~ 58.7	58.60	0.00

油種	四国	中値	前日比	福岡	中値	前日比
ガソリン	55.0 ~ 55.7	55.35	+0.15	54.2 ~ 55.2	54.70	-0.35
灯油	59.1 ~ 59.5	59.30	-0.05	59.8 ~ 60.5	60.15	0.00
軽油	57.4 ~ 58.4	57.90	-0.10	58.6 ~ 59.6	59.10	0.00
A重油	57.7 ~ 58.3	58.00	-0.20	59.5 ~ 60.5	60.00	0.00
LSA重油	58.2 ~ 58.8	58.50	-0.20	60.0 ~ 61.0	60.50	0.00

◎SS向けスポット卸市況 (円/リットル、ローリー届け、1.0~1.5円運賃圏)

油種	京浜	前日比	中京	前日比	阪神	前日比
ガソリン	110.5 ~ 111.5	0.0	110.5 ~ 111.5	0.0	109.5 ~ 110.5	0.0
灯油	61.0 ~ 62.0	0.0	61.0 ~ 62.0	0.0	60.0 ~ 61.0	0.0
軽油	91.0 ~ 92.0	0.0	91.0 ~ 91.5	0.0	91.0 ~ 92.0	0.0

◎ユーザー向け産業燃料油市況 (円/リットル、ローリー届け、1.5円以下運賃圏、大口向け、2月分)

油種	京浜	前日比	中京	前日比	阪神	前日比
灯油	60.5 ~ 61.5	0.0	59.0 ~ 60.0	0.0	59.0 ~ 60.0	0.0
軽油	90.5 ~ 91.5	0.0	91.0 ~ 92.0	0.0	90.5 ~ 91.5	0.0
A重油	59.0 ~ 60.0	0.0	58.5 ~ 59.0	0.0	58.0 ~ 59.0	0.0
LSA重油	59.5 ~ 60.5	0.0	59.0 ~ 59.5	0.0	58.5 ~ 59.5	0.0

※前日比は中値ベース

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の京浜地区は製油所の京浜中値と油槽所の京浜中値の単純平均値

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の中京地区は製油所の中京中値と油槽所の中京中値の単純平均値

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の阪神地区は製油所の阪神中値と油槽所の阪神中値の単純平均値

※東名阪製油所・油槽所出し中値平均値の軽油は製油所の課税、未課税、油槽所の単純平均値

※SS向けスポット卸市況およびユーザー向け産業燃料油市況は揮発油税・軽油引取り税を含む

※中値は小数点第3位を四捨五入

◎東商取バージ先物・日中取引(東京湾岸製油所・油槽所出しバージ取り、円/リットル)

ガソリン		始値	高値	安値	帳入値	前日比	出来高	
3月限	51.32	51.68	51.31	51.54	+0.72	23		
4月限	51.44	51.87	51.44	51.74	+0.78	39		
5月限	51.36	51.85	51.35	51.65	+0.74	29		
6月限	51.50	51.84	51.45	51.70	+0.72	66		
7月限	51.53	51.86	51.36	51.70	+0.75	272		
8月限	51.39	51.84	51.32	51.69	+0.79	390		
合計						819		
灯油								
3月限	59.04	59.18	58.98	59.06	+0.55	14		
4月限	58.11	58.32	58.00	58.14	+0.59	16		
5月限	57.53	57.96	57.53	57.96	+0.75	9		
6月限	57.57	57.80	57.40	57.80	+0.70	12		
7月限	57.45	57.45	57.08	57.29	+0.12	127		
8月限	57.01	57.22	56.84	57.01	+0.65	134		
合計						312		
軽油								
3月限	-	-	-	61.20	0.00	-		
4月限	-	-	-	60.90	0.00	-		
5月限	-	-	-	60.60	0.00	-		
6月限	-	-	-	60.30	0.00	-		
7月限	-	-	-	60.00	0.00	-		
8月限	-	-	-	59.70	0.00	-		
合計						-		
原油								
1月限	40.52	40.52	40.51	40.51	+0.05	2		
2月限	41.63	42.00	41.58	41.82	+0.70	53	取組高 (1/29)	
3月限	41.46	41.76	41.33	41.61	+0.71	101	ガソリン 売 5,886 買 5,886	
4月限	41.20	41.47	41.07	41.35	+0.68	186	灯油 売 2,519 買 2,519	
5月限	40.97	41.20	40.76	41.09	+0.75	799	軽油 売 0 買 0	
6月限	40.71	40.95	40.50	40.85	+0.78	3,995	原油 売 63,918 買 63,918	
合計						5,136	1枚=50kl	

◎東商取中京ローリー先物・日中取引(潮見および飛島油槽所出しローリー取り、円/リットル)

ガソリン		始値	高値	安値	帳入値	前日比	出来高	
3月限	53.20	53.20	53.10	53.10	+0.60	12		
4月限	-	-	-	53.00	0.00	-		
5月限	-	-	-	53.00	0.00	-		
6月限	-	-	-	53.40	0.00	-		
7月限	-	-	-	53.40	0.00	-		
8月限	-	-	-	53.40	0.00	-		
合計						12		
灯油								
3月限	60.00	60.00	59.60	59.62	-0.58	17		
4月限	-	-	-	55.90	0.00	-		
5月限	-	-	-	56.30	0.00	-		
6月限	-	-	-	55.40	0.00	-		取組高 (1/29)
7月限	-	-	-	55.80	0.00	-		ガソリン 売 470 買 470
8月限	-	-	-	55.80	0.00	-		灯油 売 91 買 91
合計						17		1枚=10kl

◎輸入採算価格 (SR船型、韓国出し、関税・石油石炭税込、円/kl)

	北海道	前日比	京浜	前日比	中京	前日比	関門	前日比
ガソリン	48,185	+894	47,976	+893	47,768	+893	47,490	+892
灯油	59,265	+1,716	59,057	+1,716	58,848	+1,715	58,570	+1,714
軽油	57,933	+1,678	57,724	+1,677	57,516	+1,677	57,238	+1,676
A重油	52,507	+1,673	52,299	+1,673	52,091	+1,673	51,813	+1,672

※SR船型による輸入、A重油は免税ベース、軽油は硫黄分10ppm

※輸入採算価格はリムアジア製品レポート掲載のシンガポール市況(ペーパー)をベース

◎海陸市況格差 (陸上4製油所平均-海上バージ市況)

ガソリン	-1.81	灯油	+3.48	未課税軽油	-1.14
A重油	+0.21	LSA重油	-0.04		

※4製油所平均=千葉、川崎、中京、阪神

◎指標原油

WTI (NYMEX 3月限, \$/bbl, 1/29 close)	53.31	+1.32
WTI (NYMEX ACCESS 3月限, \$/bbl, 1/30 5:00pm 東京時間)	53.28	-0.03
ドバイ (ペーパーズワップ, \$/bbl, 1/30 東京夕刻)	61.21 ~ 61.25	+1.15
ドバイ (ペーパーズワップ, 円/kl, 1/30 東京夕刻)	42,527	+890
ドバイ (ペーパーズワップ, 円/kl, 1/24~1/30平均)	42,273	-43
ドバイ (ペーパーズワップ, 円/kl, 1/16~1/22平均)	42,317	+426
東商取ドバイ原油当限 (円/kl, 1/30 引け)	40,510	+50

◎原油輸入平均CIF価格 (JCC、円/kl、財務省)

18/11/01-30 58,080r	18/12/01-31 51,004r	19/01/01-31 2月19日発表予定
18/11/01-10 57,737	18/12/01-10 54,320	19/01/01-10 46,090
18/11/11-20 57,775	18/12/11-20 50,788	19/01/11-20 2月7日発表予定
18/11/21-30 58,657	18/12/21-31 49,581	19/01/21-31 2月19日発表予定

◎Rim JCC予想値 (円/kl)

19/1月	42,580	±0	19/2月	42,650	+150	19/3月	43,740	+830
-------	--------	----	-------	--------	------	-------	--------	------

◎概況・トッパー停止状況=0基、停止0.0%
○陸上ローリー市況

30日の東名阪4リム製油所出しはほとんど動きがなかった。JXTGエネルギーや出光興産、昭和シェル石油が系列仕切り価格を据え置いたため、卸業者間では様子見ムードが広がった。すでに1月取引を終えたところも多く、31日のみの商談には本腰が入らなかったようだ。地方出荷地ガソリンは、四国が続伸、福岡はキレがいまひとつ。

1月第6週と2月第1週の系列仕切り価格を見ると、JXTGエネ、出光、昭シェルともに全油種を是名執から据え置く方針を関係各社に通知した。事前予想では、0.5~1円上げ観測も寄せられていたため、卸業者によっては肩透かしの部分もあったようだ。複数の市場関係者によると、JXTGエネのインタンク向けガソリン1月平均値は110.2円に試算されるという。

○ドバイ原油市況

ドバイ原油価格は、東京時間の30日夕刻時点で前日比1.15ドル高の61.21～61.25ドル。これを基にした製品コストは同0.9円高の46.2円と試算される。3月の国内製品コスト推定値は、1月28日～2月25日算定で2月平均値より1.4円高い46.2円となる見込み。なお、製品コストが現在から同水準で推移する前提で試算した週間コストは、29日～2月4日分が前週比0.2円安の46.1円になりそうだ。一方、30日の製品輸入コストは前日と比較し、すべての油種で上昇している。

○元売り市中調達

30日の調達は東西で表面化しなかった。ただ、京浜では民族系大手元売りがガソリンを買った可能性があるようだ。

○ガソリン輸入

貿易統計によると、昨年12月に輸入されたガソリンは前年を19.4%上回る21万5,151klに達した。港別では、呉港が5万7,682kl、名古屋港が5万6,507kl、堺泉北港が3万7,634kl。また、通年でみると、2018年は235万2,672klが荷揚げされ、2017年の142万978klを65.6%上回った。

◎北海道(苫小牧・石狩)

○概況

スポット流通玉市況は小動き。灯油が続落した一方で、軽油は底上げされた。灯油は消化目的の売りが複数台頭。対照的に軽油は30日期限で流通していた安値圏の玉が細った。全般的に業者間の取引は精彩を欠いている。慢性的な配送難が続いていることや、元売り各社の31日から適用される週次仕切りが据え置かれたことも影響している。

札幌の30日16時時点の最低気温はマイナス7.0度、最高気温は1.66度。9時時点の積雪は53センチ。

○ガソリン

57.7～58.7円（揮発油税込み111.5～112.5円）と前日から横ばい。

31日期限の相場は膠着。各社が改定したが、期限を延長したにとどまった。需要の系列回帰が強く、スポット玉への引き合いが弱いため、多くが気配探りに終始している。苫小牧

出しの民族系元売り玉を扱う商社系、広域系が111.5～112.5円を唱えている。また、旧米メジャー系元売り玉が112.0円まで一般的に流通している。石狩出しは苫小牧比0.5～0.7円高。

○灯油

59.4～60.0円と前日比0.2円安。

続落。30日までの先高観測を視野に入れて調達を済ませている買い手が多いことや、元売り各社の週次仕切りが据え置かれたため、買い気が急速に後退。手持ちを抱えた複数がマージンを圧縮して買い気を喚起していた。民族系元売り玉を扱う卸売業の主流唱えは

31日期限で、59.4～60円台前半。石狩出しは60.0円までの玉が広がるなど、31日渡しから下振れした。一方、主要出し元玉は、一段高に定着しており、売買対象となっていない。苫小牧出しで旧米メジャー系元売り玉が60.7円、外資系元売り玉が61円台前半と変化はなかった。在庫玉を扱う卸業者の売りは少

数で、複数が59.5円までのオファーを受けていた。

産燃市場の2月渡し月次折衝では、道央圏

の宿泊施設向けは、届け64円台前半で決着したようだ。前月比で2円以上の上昇でまとまったようだ。

○軽油

59.5~60.5円と前日比0.1円高。

配送難で動意薄の商況は解消されていない。ただし、30日期限で流通していた安値玉が姿を消し、相場は底上げされた。民族系元売り

玉を扱う卸業者が相場を形成。31日期限で苦小牧出しで課税が59.5円。未課税が60.5円まで一般的に流通している。石狩出しは苦小牧比0.5~0.7円高。

○重油

A重油は58.5~59.2円と前日から横ばい。

31日期限の各社の唱えに変化はなかった。民族系元売り玉を扱う複数の唱えは苦小牧出しで58.5円、石狩出しでは59.2円までの玉が一般的に流通している。主要出し元玉のうち、外資系元売り玉が59円台半ばと一段高に定着。買付け対象となっていない。LSA重油はA重油比0.5円高が主流。

産燃市場の2月渡し月次折衝では、道央圏の乳業向けが届け61円台後半、商業施設向けが届け59円台後半~62円台前半と、向け先によって妥結水準が広がっている。昨今の配送難を背景に、納入業者が応札や納入が出来ないと伝えるケースが増えており、これが妥結水準が広範にわたる一因となっているという。

◎東北（仙台）

○概況

仙台出しは、灯油が続落。各出し元の仕切り価格が据え置きだったこともあって、卸業者間では、31日までの価格は概ね横ばい。枠消化の遅れた向きからの値下げが目立った。ただ、月内の商談はローリーの配車難に加えて、資金面でも来月以降に買いを持ち越す向きも多く、実質的には一巡ムードが強い。ディーラーによっては、見積もり価格の提示が出揃うタイミングが遅れるのを見越し、早々に自社玉に切り替えた向きもいた。青森、八戸ではガソリンの底上げが進んだものの、中間品については概ね横ばい。

出荷停止では、小名浜のHSA重油が一部4日まで、配送遅れを理由に規制されている。

○ガソリン

58.2~58.5円（揮発油税込み112.0~112.3）で前日から横ばい。

旧米メジャー系元売り玉をベースにした玉が出荷停止と伝えられたが、製油所玉では、大手ディーラーの112円など、仕切り価格の据え置きを受けて横ばいで提示されている。広域ディーラーの複数名も112.3円の価格で変

わらず。

青森、八戸では、109円台の玉を物色する向きは多いが、広域ディーラーの111円台後半など、底上げが進んでいる。ただ、西日本ではガソリンの売り攻勢が強く、「2月に入れば、北日本でもまた売り込みが強まるのでは」（複数ディーラー）との見方は多い。

○灯油

59.6～60.3円で前日から0.05円安に続落。

仙台出しでは、広域ディーラーの中でも59.6円に値下げする向きや、59.8円に値上げる向きなど、手持ちによって対応が分かれた。一方、塩釜では、有力広域ディーラーの一角が60.3円を提示。他の出荷基地でも同値で手当てが可能なことから、オーダーを集めているという。

青森、八戸では、60.3円のほか、60円台の

価格が月内は残っている。多くのディーラーから1日以降の価格提示はないものの、月中、200kl以上を対象に61円台前半での打診が出ていた。ただ、先高見通しは乏しいと判断して手当ては見送ったという。この日は八戸市内の最高気温が6.1度と例年に比べれば高めの気温になっており、灯油商戦も早めに終わるとの見方が出ている。

○軽油

59.0～60.0円で、前日水準を維持した。

引き続き、課税玉の売り込みが目立つ。製油所出しでは広域筋から59円のほか、塩釜でも60円の価格が残っている。一方で未課税玉は、大手ディーラーや民族系最大手元売玉の扱い業者は月内の価格提示を見送った。一方、

1日以降の価格で60円の提示があった。

青森、八戸の課税玉は、59円台の玉が残っているものの、仕切り価格の通知前にもかかわらず、手持ち筋から据え置きを前提にした売り込みが多かったという。

○重油

A重油は58.0～58.2円、LSA重油は58.5～58.7円で前日水準を維持した。

仙台のA重油は、広域ディーラーから58円台前半の価格はあるものの、ローリーが手当てできず、実質商談は終了だという。58.0～58.2円で前日か

らレンジは変わらなかった。

官公需向けでは、青森市浪岡病院向けA重油が28日に開札され、届け61.2円で吉田商店が落札した。納期は2月1～28日。

◎京浜

○概況

製油所出しは動きなし。月内取引が概ね一巡し、スポット市場で積極的に売買する動きが乏しかった。配送難が続いており、新規商談も依然として進めづらい状況だ。JXTGエネルギーをはじめとした主要出し元各社が仕切り価格を据え置いたため、市況の方向感が掴みづらかったことも市場の動意を削いだ面がありそうだ。

○ガソリン

製油所は千葉出しが前日から横ばいの54.9～55.5円（揮発油税込み108.7～109.3円）、川崎出しが前日から横ばいの54.7～55.5円（揮発油税込み108.5～109.3円）。油槽

所は東京・埼玉出しが前日から0.8円安の55.0～56.0円（揮発油税込み108.8～109.8円）、横浜出しが前日から横ばいの57.2～57.7円（揮発油税込み111.0～111.5円）。

製油所出しでは、大きな動きがなかった。月内取引が概ね終了し、様子見に退くプレイヤーが大勢を占めた。すでに月内配送は新規契約が困難だったため、売買を進めづらい環境にもあったようだ。すでに2月商談に関心を移すプレイヤーも多く見受けられた。一部に最後の手持ちの消化売りを進める動きも見受けられた。ただし、これらは買い手を選別したうえでの対応にとどまったようで、相場を押し下げるほどの勢いはなかった。

川崎製油所出しは引き続き108.5～109.3円で取引可能だった。市場をリードしたのは、中堅元売り玉を扱う大手ディーラー。108.5～108円台後半で販売を進めたようだ。このほか民族系元売り玉を担いだ複数卸業者も108.5～108円台後半で売り唱えた。市場関係者によると、水面下では、大手元売りの一角が109.3円で100kl超え手当てしたと伝えられた。

一方、民族系元売り玉を扱う複数広域ディーラーや、外資系元売り玉を扱う商社系、広域系各社、旧米メジャー系元売り玉の取扱い卸各社、中堅元売り玉を扱うディーラーなどは109円台半ば～114円台前半で売り唱えた。ただし、こちらはやや割高に映り、買い手の反応は薄かった。これに対し、安値圏では108円台前半まで踏み込み、受注を獲得する動きも目に付いたが、これは実際に手当可能な業者が確認できなかった。なお、千葉製油所出

しも108.7～109.3円と前日から大きな変化はみられなかった。

月内取引を終え、すでに2月商談に関心を移すプレイヤーも多い。具体的な売唱えの提示は限られるが、一部民族系元売り玉を扱う広域ディーラーの一角が1日渡りで110円台半ばを打ち出した。民族系最大手元売り玉の基準価格(110.8円)を意識した価格設定とみられる。同水準での唱えが主流となれば、1月末から相場は1円程度底上げされることが見込まれる。ただ、元売り各社が仕切り価格を据え置いたため、相場の底上げ機運が削がれた。販売不振が続いており、大手元売りからは「2月は積極的に売っていきたい」との声も聞かれる。中堅元売り玉を扱う大手ディーラーなど月間平均玉を多く扱う業者の動き次第では、2月初日の相場は上がらない可能性もある。

油槽所出しはまちまち。東京・埼玉では在庫玉の取扱い大手が値下げし、在庫処分に動意付いた。このため取引相場は108.8～109.8円に移行した。向け先によっては、前日並みの110円台前半の唱えも残ったようだが、買い妙味は薄かった。一方、横浜は売買動意に欠け、動きがなかった。相場は111～111.5円と前日から大きな変化はみられなかった。

東商取3月限の帳入値は前日比0.72円高の51.54円(揮発油税込み105.34円)。

○灯油

製油所は千葉出しが前日から横ばいの58.8～59.3円、川崎出しが前日から横ばいの58.8～59.3円。油槽所は東京・埼玉出しが前日から0.4円安の59.8～60.0円、横浜出しが前日から1.05円安の58.9～59.1円。

製油所出しは大きな動きがなかった。すでに月内取引が一巡し、動意の乏しい展開だった。配送難も続いており、新規に商談は進めづらかったようだ。月次販売枠の消化を終え、

市場から離脱するプレイヤーが散見される一方、ルートによっては手持ちが残っているため、値下げする向きもみられた。このため、すでにホームセンター向けなどに販売を決め配送ローリーも確保していたディーラーなどに対しては、値ごろな玉も供給されたようだ。ただし、こうした売りも個別対応にとどまったようで、相場を圧迫するには至らなかった。

川崎製油所出しでは、中堅元売り玉を扱うディーラーが58.8円で売り唱え、一定のオーダーを確保したようだ。これにさや寄せする格好で、外資系元売り玉を担いだ広域ディーラーが59円近辺まで値下げし、これに対抗。同元売り玉の別の取扱いディーラーは59円近辺～59.3円で販売。一部個別に販価を引き下げるなどの対応もみられた。このほか外資系元売り玉を扱う有力ディーラーや、旧米メジャー系元売り玉を扱う地場ディーラーなどは59.3円で販売を進めたようだ。

一方、中堅元売り玉を扱う複数ディーラーや、外資系元売り玉を担いだ商社系、広域系各社、民族系元売り玉の取扱い大手2社、旧米メジャー系元売り玉を扱うディーラーなどは59円台半ば～61円台前半で販売を進めた。なお、千葉製油所出しも58.8～59.3円と前日から変わらなかった。

油槽所出しは下落。中堅元売り玉を主に扱うディーラーなどが在庫の処分を目的に、59.8～60.0円まで値下げし、これが新たな相場を形成した。向け先によっては、61円近辺の唱えもみられたが、やや割高に映り、買い手の反応は鈍かったようだ。また、横浜でも売りが先行した。先物相場がバックワーション(逆ざや)となっていることが売りを誘ったようだ。在庫玉を扱う広域ディーラーなどが積極的に売り込み、取引相場は58.9～59.1円まで軟化した。

産業用燃料向け入札案件では、大手圧延メーカー向け2月渡し150kl程度が届け61円台半ばで決着したと伝えられた。開札は28日に行われたようだ。市場関係者からは、「かなり踏み込んだ価格」との声も聞かれた。

東商取3月限の帳入値は前日比0.55円高の59.06円。

○軽油

製油所出しの課税玉は56.9～57.6円。未課税玉は59.0～59.5円ともち合った。一方、油槽所出しは東京・埼玉が前日比0.5円安の58.0～59.0円へ下落したが、横浜は60.5～61.0円と前日水準を維持した。

総じて1月商談は一巡しており、新規動意に欠けた。慢性的な配送の混雑に加え、元売り各社が31日から適用する週次仕切りを据え置いたことが影響した。31日渡しからは東京・埼玉油槽所で値下げする卸業者が出現したにとどまった。また、月次では課税玉の浮遊が目立った一方で、未課税玉は課税玉と対比して浮遊が目立たないと傾向が強くなったと伝えた市場関係者もいた。これらの背景には、卸業者によってはスポット市場でなく、フリートSSへの供給を優先する動きが進んでいることも一因のようだ。

製油所出しの課税玉は外資系元売り玉を扱う卸業者が相場をリードしている。31日期限で千葉、川崎ともに56.9円までのオファー

が見受けられた。ただし、手持ちとコストを勘案して58円台前半以上を唱えるディーラーも多かったが、多くは買い手不在と口を揃えた。未課税玉で59円台前半の玉が一般的に流通していることや、インタンク向けやフリート向けの納価で課税でEXパイプに換算すると、57円前後に相当する売買が進んでいるため、58円台の玉は相対的に割高と見る向きが多い。一方、販路は限定されたが56.9円を下回る売り込みも散見された。中堅元売り玉は川崎出しで57.5円近辺。旧米メジャー系元売り玉、民族系元売り玉の広域、地場ディーラーの主流唱えは58円台前半～60円台前半など、コストに見合う販売に徹していたが、買付け対象となっていなかった。

未課税玉を扱う卸業者も変化を欠いた。外資系元売り玉が31日期限で59.0～59.5円、59.5円超えと対応は分かれたまま。一方、旧米メジャー系元売り玉、中堅元売り玉を扱う卸業者は販売休止しているケースが多いが、

59円台後半で買い気を探る動き見受けられたにとどまった。

油槽所出しは、東京・埼玉では複数が販売を再開し、品薄感が解消。31日期限で課税で58.0円、未課税で58.8～59.0円のオファーを

複数を受けていた。一方、横浜は前日の相場から影響を及ぼす動きはなかった。

東商取2月限の帳入値は、前日から横ばいの61.2円。京浜の海上市況は60.0～61.0円。

○重油

LSA重油の製油所出しは千葉が57.4～57.8円、川崎が57.2～57.8円ともち合った。

油槽所出しは東京・埼玉が前日比0.1円の58.5～58.7円へ下落したが、横浜は59.5～60.0円ともち合った。

1月渡し商談は一巡している。東京・埼玉油槽所では、販売を再開するディーラーが下値を追う動きはあったが、白油よりもタンクローリーの遊休車が少ないため、物理的にEXパイプでの取引が進みづらい商況は解消されていない。

製油所出しでは、中堅元売り玉を扱う卸業者が相場を形成している。31日期限で川崎出し57.2円のオファーを複数を受けていた。千葉出しは川崎比0.2円高。主要出し元玉、民族系元売り玉を扱う卸業者は手持ちとコス

トを勘案した唱えに徹している。このうち、外資系元売り玉の主流唱えは58.0～59.4円と広範にわたっている。旧米メジャー系元売り玉、民族系元売り玉を扱う卸業者の主流唱えは59.0円以上が専らだが、ディーラーによっては57.8円まで追随して買い気を喚起していた。引き取りの利便性が高い旧米メジャー系元売り玉で57円台後半の玉が入手可能なため、57.8円を超える玉は買付け対象となっていないようだ。A重油はLSA重油対比で0.5～1.0円安。

油槽所出しは東京・埼玉では出荷停止して様子見する卸業者が多かったが、31日渡しから58.5～58.7円のオファーを多数を受けていた。一方、横浜で前日の相場に影響を及ぼす動きはなかった。

◎中京

○概況

製油所、9号地ともに総じて模様眺め。市場の多くは2月相場に関心を向けており、31日分については「ほとんど動きがない」（複数の市場関係者）。主要出し元各社の系列仕切り据え置き方針も響いた。

○ガソリン

製油所出しは前日から変わらずの54.7～55.2円（揮発油税込み108.5～109.0円）、9号地も変わらずの54.7～55.2円（同108.5～109.0円）。

31日引取り分の製油所、9号地はともに前日水準でもち合った。民族系最大手元売りや外資系元売りが系列仕切り価格を据え置いたため、卸業者の多くも様子見が専らとなった。

製油所出しでは、四日市玉ベースで108.5～108.8円、109円などの売買唱えが散発。元売り仕切り価格が据え置かれる中、31日期限の売買唱えに対し、価格を見直すだけの新規材料はなかったようだ。109.5～110円台の売唱えも散見されたが、市場の関心はいまひとつ

中京製油所出しの月初を起点に当日中値が

月末まで続くと仮定した場合、月間平均は107.9円相当に見積もられる

9号地も目立った動きはない。大手タンク業者は価格改定を見送り、個別対応に終始。大口の量販店向けに一定数量を108.5円でまとめたようだ。

広域系間でも前日並みの売買唱えが散見。商社系ターミナルや丸中ターミナルをペースに108.5～109円の提示が多かった。もともと、製油所玉同様、月内の取引を終えた卸業者も多く、実際にはアイデアナンバーの側面も強かった。

東商取中京ローリー3月限は前日比0.6円高の53.1円(同106.9円)で日中取引を終えた。出来高は120kl。海上バージ3月限は同0.72円高の51.54円(同105.34円)。

需給面では、貿易統計によると、昨年12月に名古屋港へ輸入されたガソリンは5万6,507klに達し、前年から2.7倍となった。全国で見ても約22万klと前年と比べて19.4%多い。名古屋港のシェアは約26%。それ以外では、金沢港へも1万1,235klが荷揚げされた。昨年8月以降、1万kl前後の輸入玉が毎月荷揚げされている。

○灯油

製油所出しは前日から変わらずの59.2～59.7円、9号地は同0.15円安の59.5～60.0円。

31日引取り分の製油所出しは、出し元の系列仕切り据え置き方針を織り込み、前日並みの提示が残った。実際に四日市玉を中心として59.2～59.5円、59.7円などの売買唱えが専ら。ただし、31日限定の提示がほとんどだったため、様子見を含めた気配値の側面も強かったようだ。

9号地は小安い。大手タンク業者は様子見し、個別対応に徹し、59円台半ばから後半の販価

を据え置いた。ただし、量販小売業者向けの大口数量については、ある程度柔軟に値決め交渉を進めた形跡もある。

広域系間では、先物の軟化もあり、60円を超える売買唱えに対し、慎重な見方が広がった。商社系ターミナルや丸中ターミナルでは、59.5～60円の売買唱えやアイデアが残った。

東商取中京ローリー3月限は前日比0.58円安の56.92円で日中取引を終えた。出来高は170kl。

○軽油

製油所出し課税玉は前日から変わらずの57.5～58.3円、未課税玉も変わらずの59.4～60.0円、9号地も変わらずの59.0～60.0円。

両センターともに前日水準を維持。出し元の系列仕切り据え置きも織り込まれ、全体的に様子見ムードが広がった。

31日取り分の製油所出し課税玉は、月内商談の一巡観も強く、「やり取り自体が限定的」(市場関係者)などの声が寄せられた。実際に残った売買唱えやアイデアは57.5～57.8円、58～58.3円など、ほぼ前日並み。

未課税玉も動意はない。特徴業者向けの売

唱えは59.4～59.5円、さらに60円の市況を維持した。

9号地も様子見。大手タンク業者は価格改定を見送り、模様眺めに徹した。未課税玉の販価は59.8～60円のまま。

課税玉を取扱う卸業者もほとんど動きはなく、商社系ターミナルや丸中ターミナルでは、59～60円台の売唱えが広く残った。

需給面では、貿易統計によると、昨年12月に名古屋港へ荷揚げされた軽油は1万9,583kl。全国ベースでは3万6,503klとなり、約53%が名古屋港に輸入された格好だ。

○重油

製油所出しLSA重油は前日から変わらずの58.0～59.0円、9号地も変わらずの58.7～59.5円。

29日引取り分の製油所、9号地ともに大きな価格改定はなく、総じて様子見ムードが強かった。

31日引取り分の製油所、9号地ともに様子見。白油同様に積極的なやり取りは過ぎられ、

アイデアベースの側面も強かった。

製油所出しの売買唱えは四日市玉中心に58～59円と前日から大きく変わった形跡はなかった。9号地も58.7～59.5円の売買唱えやアイデアなどが専ら

A重油は製油所出しが前日から変わらずの57.5～58.5円、9号地も変わらずの58.2～59.0円。

◎阪神
○概況

スポット市況は製油所出しのガソリン、灯油、未課税軽油、重油が横ばい。1月渡し商談の最終取引日とあって、外販枠の消化を進めて市場を静観する業者が大勢だ。JXTG エネルギー、昭和シェル石油が31日～2月6日出荷分に適用する仕切り価格を全油種で据え置いたのも相場を膠着させている。ディーラー各社の関心はすでに2月渡し分に移ったようだ。阪神の2月1日渡し分に関して、月替わりを機に月間平均玉の売込みが後退し、商談水準は切り上げとみる市場関係者が多い。

○ガソリン

製油所出しが前日から横ばいの53.9～54.3円(揮発油税込み107.7～108.1円)、油槽所出しが同横ばいの53.7～54.5円(揮発油税込み107.5～108.3円)。

スポット価格は製油所出し、油槽所出しとももち合った。月内商談に終了ムードが広がっており、全体としては販価を据え置き市場を静観するディーラーがほとんど。市場は静かな状態だ。個別交渉で枠消化に動く業者も現れているが、採算的に値下げ余地は限られるようで、商談水準の低下には至らない。配車難の中、自社玉の消化を優先する業者が多く、業者間では新規商談が盛り上がりにくいとの意見も聞かれた。

製油所出しでは、四国の元売り玉をベースに販価を算出する卸業者が、31日渡し分を107.7円で提示。四国の元売り玉を扱う別のディーラーも107.7円で打ち出している。中堅元売り玉や四国の元売り玉を織り交ぜて107.7～107.8円で商談を進めた業者もいる。また、

民族系元売り玉や中堅元売り玉などから仕入れるディーラーは107.9～108.1円で販売を継続。多様な仕入れを有する業者は108円で打ち出している。中堅元売り玉などをベースに108～108.1円で商談をまとめたディーラーも見受けられた。108.1円超の売り物も多くあるが、活発にやりとりされた様子はない。

油槽所出しでは、堺ターミナルで107.5～108円程度の出物がみられた。櫻島ターミナルでは107円台後半～108.3円の唱えが残った。油槽所では108.3円超の出物もあるが、買い手の反応は総じて鈍い。

阪神出しの届け取引では、安値圏でEXパイプ換算107円台前半の商談がみられた。107円台半ばで取引が成立するケースも多い。倉取りと同様に、商談水準が大きく動いた様子はない。

西日本の海上市況は、現在56円台後半で推移している。

石連週報によると、直近26日時点の西日本ガソリン在庫は、前年同期比4.5%増の87万4,642kl となっている。

財務省の貿易統計速報によると12月は、堺泉北港に3万7,634kl が輸入された。

○灯油

製油所出しが前日から横ばいの58.7~59.0円、油槽所出しが同横ばいの58.5~59.0円。

スポット価格は製油所出し、油槽所出しとももち合った。月内商談にめどをつけて、すでに身軽になったディーラーが多い。原油相場の上昇などを受けて、油槽所では販価を引き上げる動きも出たが、全体としては価格を据え置く業者が多く、相場の底上げには至らない。

製油所出しでは、外資系元売り玉の取扱い業者が31日期限で58.7円の販価を提示。外資系元売り玉など複数ルート仕入れを有する業者は58.8円で打ち出している。また、民族系元売り玉や中堅元売り玉などをベースに販価を組み立てたディーラーは58.9円で取引。民族系元売り玉や四国の元売り玉などを扱う

業者は59円で販売している。59円の成約は中堅元売りルートでも浮上。59円の玉は外資系元売りルート、旧米メジャー系元売りルートでもそれぞれ調達可能となっている。59円超の売り物も出回っているが、買い手の反応はいまひとつだった。

油槽所出しでは、堺ターミナルで58.5~58円台後半の出物が多い。櫻島ターミナルでは58円台後半~59円の唱えが寄せられている。油槽所では59円を上回る見積もりも出回っているが、積極的に商談された様子はない。

西日本の海上市況は、現在55円程度で推移している。

石連週報によると、直近26日時点の西日本灯油在庫は、前年同期比23.3%増の63万9,471kl となっている。

○軽油

製油所出し課税玉が前日から0.05円安の57.2~57.7円、未課税玉が同横ばいの59.0~59.5円、油槽所出しが同0.1円安の57.2~58.2円。

スポット価格は、製油所出しの課税玉と油槽所出しが小安い。荷余りを意識し、下値を試す業者がみられた。ただ、31日渡しの注文には自社玉を充てる卸業者が多く、業者間の取引量は限定的という。慢性的なタンクローリー不足も取引に制限をかける。

製油所出しの課税玉では、四国の元売り玉をベースに販価を組み立てたディーラーが31日渡し分を57.2~57.3円で提示。民族系元売りルートでは57.3~57.4円の唱えが残った。四国の元売り玉や中堅元売り玉を扱うディーラーは57.5円で取引。中堅元売り玉などの取

扱い業者も57.5円で商談を進めた。複数ルートの仕入れをベースに57円台半ば~57.7円で打ち出す業者もみられた。57.7円超の見積もりも寄せられているが、買い手の反応は総じて鈍い。57.2円割れの出物も見え隠れするが、実際に手当て可能な業者は限られていた。

製油所出しの未課税玉では、外資系元売り玉の取扱い業者が59~59.5円で販売を継続。外資系元売り玉などから仕入れるディーラーも59~59.5円で打ち出している。59.5円超の売唱えも聞かれるが、積極的に売買された様子はない。未課税玉は、依然として課税玉の値位置を大きく上回るため、同業者間の荷動きは精彩を欠く状況という。ただ、外販枠消化のため、ディーラーによっては課税玉と比

較しても相当に割安感がある水準で未課税玉を売り込む業者もいるようだ。

油槽所出しの課税玉、未課税玉では、堺ターミナルで57.2～57円台後半の出物がみられる。櫻島ターミナルでは57円台後半～58.2円の唱えが聞かれた。58.2円より高い見積もり

も寄せられているが、取引量は限られたようだ。

石連週報によると、直近26日時点の西日本軽油在庫は前年同期比10.5%減の70万5,676klとなっている。

○重油

A 重油は製油所出しが前日から横ばいの57.5～58.0円、油槽所出しが同横ばいの57.7～58.2円。LSA 重油は製油所出しが同横ばいの58.0～58.5円、油槽所出しが同横ばいの58.2～58.7円。

スポット価格は製油所出し、油槽所出しとも横ばい。月内商談を手仕舞い、市場を模様眺めする卸業者が多かった。

製油所出しのLSA 重油では、外資系元売り玉の取扱い業者が31日渡し分に関して、58円で販売を継続。58円の出物は民族系元売りルートでもみられた。外資系元売りなどから仕入れるディーラーは58円台前半で商談。民族系元売り玉や中堅元売り玉をベースに販価を

組み立てた卸業者は58.5円で取引を成立させている。58.5円では民族系元売り玉の取扱い業者や、外資系元売り玉などの取扱い業者も打ち出している。58.5円超の出物もあるが、買い手の反応は薄かった。58円割れの唱えも聞かれるが、手当て可能な業者は少なかった。

製油所出しのA 重油は、57.5～58円。57.5円の出物は、引き続き外資系元売りルートで調達可能となっている。

石連週報によると、直近26日時点の西日本A 重油在庫は前年同期比30.4%増の26万5,884kl、LSA 重油在庫が同8.7%増の11万766klとなっている。

◎四国

○概況

スポット市況は中間留分が弱含み。1月渡し分の最終取引日とあって、外販枠の消化売りが起きている。ただ、月内のタンクローリーはすでに満車のため、荷動きが活発化する様子はない。ガソリンは続伸。手持ち玉の消化を進めたディーラーがみられ、商談水準が底上げされた。なお、JXTGエネルギー、昭和シェル石油は31日～2月6日出荷分に適用する仕切り価格を全油種で据え置いている。

○ガソリン

前日比0.15円高の55.0～55.7円(揮発油税込み108.8～109.5円)。

スポット価格は続伸。浮遊玉の整理を終えた業者が散見され、地合いはしっかりとした状況だ。個別交渉ベースで、販売の数量調整に徹するディーラーもいるようだ。

坂出では、民族系元売り玉をベースに販価を組み立てた業者が31日渡し分を108.8円で

取引。民族系元売りルートでは109円切れの唱えも聞かれた。また、民族系元売り玉の取扱い業者の中には109円台前半で商談を進めたところもある。他社玉をベースに109.4～109.5円で売り出す業者も見受けられた。外資系元売りルートなどでは109.5円を上回る唱えも寄せられているが、積極的に売買された様子はない。108.8円割れの出物も見え隠れす

るが、ここまで対応可能な売り手は少なかった。

一方、菊間の業者間取引では109円程度の売り物が見積もりベースで手当て可能となっている。

周辺では、水島出し、麻里布出しがいずれも109円台半ば、宇部出しが107円台後半でそれぞれ買い手の反応があるという。

○灯油

前日比0.05円安の59.1～59.5円。

スポット価格は小幅安。月内渡し商談の最終取引日とあって、手持ち玉の売り切りを図る業者が下値を探った。

坂出では、31日渡し分を対象に民族系最大手元売りとされるルートから59.1～59.5円の唱えが聞かれた。民族系元売りから仕入れるディーラーは59円台前半を提示。多様な仕入れを有するディーラーは59.4円で売り唱えた。

民族系元売りとされるルートでは59.5円の見積もりも寄せられている。59.5円超で打ち出す業者もいるが、活発に取引された様子はない。

一方、菊間の業者間取引では、61円程度の売り物が見積もりベースで買付け可能だ。周辺では、水島出しが59円台半ばで買い手の反応があるようだ。

○軽油

前日比0.1円安の57.4～58.4円。

スポット価格は弱含み。手持ち玉の消化売りが表面化している。足元では大きく値下げし、受注拡大を図る業者もいるもよう。

坂出の課税玉では、外資系元売り玉などを扱う卸業者が31日期限で57.4円の販価を提示。他社玉を担いだディーラーは57.5円で打ち出

している。また、多様な仕入れを有する業者も57.5円で見積もりを出した。一方、未課税玉は58円台半ばから手当て可能となっているが、課税玉との値差を考慮すると、オーダーの入りやすい水準は58.5円までという。

菊間の業者間取引では、未課税玉が61円台半ばで手当て可能となっている。

○重油

A 重油が前日比0.2円安の57.7～58.3円、LSA 重油は同0.2円安の58.2～58.8円。

スポット価格は続落。外販枠の消化を図る卸業者が下値を探った。

坂出のA 重油では、民族系の元売り玉を扱う卸業者が31日期限で57.7～58.0円の販価を提示。民族系元売りとされるルートでは58円程度の玉が散見された。また他社玉をベースに販価を組み立てたディーラーは58.2円を提

示。多様な仕入れを有する業者は58.3円で打ち出している。一方、LSA 重油は58.2～58.8円で手当てが可能。A 重油、LSA 重油ともこれらの価格帯に該当しない唱えも寄せられているが、取引量は限られたもよう。

菊間の業者間では、A 重油が58円台後半、LSA 重油が59円台前半でそれぞれ手当て可能となっている。

◎九州

○概況

スポット相場はガソリンが軟調。消化を目的とした売り込みが、相場を徐々に押し下げている。一方、中間三品に変化はない。元売りの仕切り価格が据え置きだったこともあり、売値を変えずに様子見する業者が多かった。個別交渉などでは割安な売り込みも見え隠れしているが、広く売り込みをかけるケースは限定的。

○ガソリン

前日比0.35円安の54.2～55.2円（揮発油税込み108.0～109.0円）。

スポット相場は続落している。手持ち玉の消化を図る売り手が多く、相場は日に日に切り下がっている状況だ。先物市況の上伸を受けて値上げする業者もいたが、上値を追う展開とはなっていない。

西戸崎では引き続き108円台の売り物が出回っている。108.9～109円、109.2～109.4円などが見積もりベースで提示された。同価格帯は複数の広域ディーラーが提示しており、買い手は一般的に調達可能となっている。ただ、「109円台では買い手が付きにくい」（地

場ディーラー）との声が出ている。油槽所玉を108円や108.3～108.5円で売り込む業者がいるため、109円台には割高感が出ているようだ。また、交渉次第では107円台まで踏み込む業者もいるという。

小倉や八代においても、売り圧力が極めて強い状況。小倉では108円を割り込む売り込みが広く出ている。107円台後半～108円前後、108円台前半が提示されており、交渉次第でさらなるディスカウントに応じる動きもあった。これらの玉は、複数の広域ディーラーや大手広域ディーラーなどが見積もりで提示している。

○灯油

前日と同じ59.8～60.5円。

スポット市況は変わらず。売値を据え置いたまま様子見する業者が多く、相場に変化は見られない。個別交渉では売値を大きく引き下げて買い気を探る動きもあるが、向け先が限定される場合が多い。

西戸崎では、引き続き60.2～60.3円など60

円台前半の売り込みが出ている。同価格帯は外資系元売り玉や油槽所玉をベースとする業者が提示した。東浜においても60.5円などが提示されていた。一方、買い気を探るために60円を割り込んだ唱えを打ち出す業者もいた。59.8～60円に加え、向け先を絞って59円台半ばを提示するケースがある。

○軽油

前日から変わらずの58.6～59.6円。

スポット相場に変わりはない。売り手の多くは唱えを据え置いたまま様子見しており、相場には大きな変化は見られなかった。前日まで消化を図っていた売り手の中には、消化を終えて様子見する動きもあった。

課税玉の売唱えでは、59円台が提示された。

西戸崎および荒津で59～59.2円、59.4円など59円台前半が出回っている状況。前日まで58円台で売り込みをかけていた業者の中には、消化を終えて様子見に退く動きがあった。一方、依然として58.6～58.7円で枠消化に動く業者もいる。西戸崎や東浜で提示されているという。中には向け先を限って58円前後～58円台前半ま

で踏み込むケースもあるようだ。

未課税玉では引き続き59円台が買い手のつく水準という。59.5～59.6円が西戸崎で提示さ

れていた。見積もりベースでは61円台が提示されているが、同価格帯は課税玉と対比して割高感があるようだ。

○重油

A重油は59.5～60.5円、LSA重油は60.0～61.0円といずれも前日と同じ。

スポット相場に変わりはない。元売りの仕切り価格据え置きもあり、大きく唱えを改定する業者は限定的だった。また、すでに1月商談にめどをつける業者も多く、他の油種で見受けられる売り込みも少ないようだ。

A重油の売唱えでは、西戸崎出荷が60～

60.5円とほぼ変わらず。荒津出荷でも同水準の玉が調達可能となっている。一方、民族系の元売り玉、市況連動玉などをベースとして59.5～59.7円、59.8円など59円台後半を提示する業者も複数いる。LSA重油はA重油比で0.5円の上ザヤを形成している。60～61円が複数の出荷地で提示されていた。

◎マーケットニュース

○JXTGエネ=31日からの基準価格、ガソリンは据え置きを通知

JXTGエネルギーは30日、31日～2月6日出荷分に適用する基準価格を通知した。複数の市場関係者によると、全油種を現行から据え置く。

○出光興産=31日以降の系列仕切り価格、全油種据え置き

出光興産は31日以降の出荷分に適用する系列向け仕切り価格について、いずれの油種も据え置くと通知した。市場関係者が30日、明らかにした。

○昭和シェル石油=31日以降の仕切り価格、据え置きを通知

昭和シェル石油は30日、31日以降の出荷分に適用する仕切り価格を通知した。複数の市場関係者によると、全油種で据え置きの通知だった。前週24日以降の改定は、全油種で1.5円の引き上げだった。

○貿易統計速報=1月上旬の原油輸入CIF価格は下落、46,000円台に

財務省が30日に発表した貿易統計速報(旬間ベース)によると、1月上旬の原油・粗油輸入平均CIF価格(JCC)はキロリットル(kl)あたり46,090円と12月下旬比で3,491円下落した。12月の月間平均比では4,914円安い。一方、1月上旬の通関量は12月下旬比317万1,000kl減の344万7,000kl。1月上旬の為替レートは1ドル=111.54円だった。

12月のJCC速報値は51,004円、11月の同確報値は58,080円にいずれも下方修正されている。

○陸上入札=青森市立浪岡病院向け2月A重油、吉田商店が落札

青森市が28日に開札した市立浪岡病院向け2月納期A重油の競争入札は、届け61.2円で落札された。1月の価格を0.1円上回った。数量は未定で、納期は2月1～28日まで。落札業者は吉田商店で、5社が応札した。2番札は佐々木石油の62.8円。

○週間SS市況調査＝レギュラーガソリンの全国平均、値上がりに反転

資源エネルギー庁が30日に公表した給油所の週間市況調査によると、28日時点の全国平均価格は、レギュラーガソリンが142.9円。前週から0.4円高で、13週ぶりに値上がりに転じた。ハイオクガソリンも153.7円で前週から0.4円高だった。

都道府県別の動向として、レギュラーガソリンの値上がりは33都道府県、横ばいは2県、値下がり12県。沖縄県を除く都道府県別のレギュラーの最安値は前週に続き、埼玉県の136.7円(前週比1.2円高)。対する最高値は長崎県の154.5円(同0.4円安)だった。

軽油は124.0円で前週から0.4円高だが、灯油は88.7円で(18リットルあたり1,596円)前週から横ばいだった。

都道府県別・石油製品市況週動向査＝2019/1/28

	ハイオク		レギュラー		軽油		灯油(店頭)		
		前週比		前週比		前週比		前週比	
北海道局		151.7	+1.3	141.8	+1.3	125.2	+1.0	1,625	+3
	青森	152.7	+0.2	141.7	+0.2	123.0	+0.2	1,500	+1
	岩手	150.8	+1.1	139.8	+1.1	120.1	+1.2	1,511	+1
	宮城	149.8	+0.3	138.9	+0.3	119.9	+0.3	1,498	0
	秋田	154.5	-0.2	143.5	-0.3	127.2	+0.5	1,519	-2
	山形	156.5	+0.2	145.3	+0.2	128.4	+0.2	1,547	+2
東北局	福島	155.8	+0.9	144.6	+0.9	125.2	+1.2	1,533	+1
		153.2	+0.4	142.2	+0.4	123.7	+0.5	1,518	+1
	茨城	150.9	+0.9	139.8	+0.9	119.8	+1.1	1,499	+2
	栃木	151.6	+0.5	140.5	+0.5	121.5	+0.4	1,556	+4
	群馬	152.2	+1.8	141.1	+1.8	123.4	+0.7	1,579	+12
	埼玉	147.6	+1.2	136.7	+1.2	118.1	+0.9	1,557	+10
	千葉	149.6	-0.2	138.7	-0.3	119.8	-0.3	1,582	-7
	東京	154.0	+1.3	143.3	+1.3	125.0	+1.3	1,734	+5
	神奈川	150.2	+3.3	139.3	+3.3	119.7	+1.6	1,651	+12
	新潟	150.8	+0.7	139.5	+0.6	123.6	+0.6	1,620	+9
関東局	長野	160.9	0.0	149.7	+0.1	128.8	+0.1	1,584	-1
	山梨	155.4	-0.1	144.1	-0.2	122.5	0.0	1,595	-3
	静岡	154.5	+0.3	143.2	+0.3	124.2	+0.4	1,649	+4
		152.4	+0.9	141.4	+0.9	122.3	+0.6	1,603	+4
	愛知	148.9	+0.6	137.9	+0.6	119.9	+0.6	1,595	-1
	岐阜	154.0	+0.9	142.9	+0.9	122.6	+0.8	1,554	+4
	三重	153.7	+0.5	142.3	+0.5	125.2	+0.4	1,606	0
中部局	富山	151.7	+0.3	140.8	+0.3	123.1	+0.3	1,616	-1
	石川	148.9	+0.8	138.2	+0.8	122.5	+0.8	1,540	+11
		151.2	+0.6	140.2	+0.6	122.1	+0.6	1,581	+2
	福井	153.4	+0.8	142.1	+0.8	124.2	+0.4	1,575	+9
	滋賀	151.1	+0.1	140.7	0.0	118.0	-0.1	1,545	-2
	京都	156.5	+0.2	145.6	+0.3	125.6	-0.1	1,691	-4
	奈良	151.4	+1.4	140.6	+1.3	120.7	+1.2	1,530	+3
	大阪	151.6	+0.8	141.0	+0.9	121.3	+0.5	1,591	0
近畿局	兵庫	151.6	-1.0	140.8	-1.1	121.0	-0.4	1,599	-12
	和歌山	150.1	-0.3	140.1	-0.3	119.9	0.0	1,571	-6
		152.3	+0.2	141.6	+0.2	121.5	+0.1	1,589	-4

中国局	鳥取	151.9	+1.4	140.9	+1.5	125.3	+1.6	1,603	+25
	島根	155.0	+0.4	143.9	+0.6	127.8	+0.5	1,645	+5
	岡山	152.4	+0.5	141.8	+0.5	122.5	+0.3	1,498	-1
	広島	152.2	+0.3	140.6	+0.2	124.0	+0.2	1,590	+4
	山口	150.8	+0.9	139.9	+1.1	122.8	+1.0	1,565	+18
	徳島	152.5	+0.8	141.4	+0.8	124.5	+0.7	1,581	+10
	香川	149.3	-0.3	138.7	-0.2	121.1	-0.4	1,503	+2
	愛媛	155.9	-0.4	145.1	-0.4	123.2	-0.5	1,531	-7
	高知	156.0	+0.5	145.0	+0.5	123.9	+0.3	1,609	-6
	四国局	福岡	162.4	0.0	152.3	0.0	132.3	0.0	1,711
佐賀		155.6	-0.2	145.0	-0.2	124.8	-0.3	1,584	-6
長崎		156.6	-0.7	145.6	-0.3	124.0	+0.2	1,568	-8
熊本		161.1	-0.5	150.2	-0.4	130.3	-0.4	1,691	-5
大分		164.6	-0.5	154.5	-0.4	136.5	-0.2	1,720	-2
宮崎		158.1	-0.7	148.0	-0.6	123.9	-0.8	1,581	-15
鹿児島		164.8	-0.1	153.9	-0.1	131.4	0.0	1,677	-4
九州局		159.6	+0.1	148.9	+0.1	129.4	+0.9	1,715	+17
沖縄局		161.1	0.0	151.6	+0.1	133.5	+0.2	1,739	+5
九州沖縄局		161.0	-0.3	150.5	-0.3	130.1	0.0	1,671	-4
全国平均	156.2	+0.1	147.8	+0.1	131.6	-0.2	1,834	-5	
	160.4	-0.3	150.2	-0.2	130.3	-0.1	1,686	-3	
	153.7	+0.4	142.9	+0.4	124.0	+0.4	1,596	0	

出所: 資源エネルギー庁

調査対象は約 2,000 店。ガソリン、軽油は円/ℓ、灯油は店頭 18 ℓ。現金ベース。

○原油・石油製品供給統計週報＝＜石油連盟全国＞

	今週	前週	前週比
	1/20～1/26	1/13～1/19	
製油所稼働状況			
週間原油処理量 (kl)	3,619,907	3,666,724	-46,817
週間トッパー実稼働能力 (b/d)	3,482,371	3,518,800	-36,429
週間トッパー実稼働率	93.4%	93.6%	-0.2
週間トッパー設計能力 (b/d)	3,518,800	3,518,800	+0
週間トッパー設計能力稼働率	92.4%	93.6%	-1.2
石油製品週末在庫			
ガソリン	1,824,904	1,808,172	+16,732
ナフサ	1,389,309	1,464,876	-75,567
ジェット燃料油	817,827	846,072	-28,245
灯油	2,013,686	2,097,947	-84,261
軽油	1,664,337	1,737,794	-73,457
LSA 重油 (S 分 0.1%以下)	285,071	304,701	-19,630
HSA 重油 (S 分 0.1%超)	542,006	510,869	+31,137
A 重油計	827,077	815,570	+11,507
LSC 重油 (S 分 0.5%以下)	658,266	664,397	-6,131
HSC 重油 (S 分 0.5%超)	1,429,194	1,478,322	-49,128
C 重油計	2,087,460	2,142,719	-55,259
合計	10,624,600	10,913,150	-288,550
原油・半製品・装置原料週末在庫			
原油	13,447,216	13,504,266	-57,050
粗ガソリン	2,484,398	2,476,984	+7,414

粗灯油	653,418	615,087	+38,331
粗軽油	985,632	1,060,886	-75,254
粗A重油	629,462	629,267	+195
装置原料	2,826,363	2,853,364	-27,001
合計	7,579,273	7,635,588	-56,315
石油製品生産量			
ガソリン	927,697	980,228	-52,531
ナフサ	415,717	473,814	-58,097
ジェット燃料油	197,301	269,545	-72,244
灯油	412,506	445,566	-33,060
軽油	832,020	864,894	-32,874
LSA重油(S分0.1%以下)	151,155	141,393	+9,762
HSA重油(S分0.1%超)	145,132	134,627	+10,505
A重油計	296,287	276,020	+20,267
LSC重油(S分0.5%以下)	76,332	65,826	+10,506
HSC重油(S分0.5%超)	202,963	228,976	-26,013
C重油計	279,295	294,802	-15,507
合計	3,360,823	3,604,869	-244,046
石油製品輸入量			
ガソリン	n. a.	n. a.	-
ナフサ	n. a.	n. a.	-
ジェット燃料油	n. a.	n. a.	-
灯油	n. a.	n. a.	-
軽油	n. a.	n. a.	-
LSA重油(S分0.1%以下)	n. a.	n. a.	-
HSA重油(S分0.1%超)	n. a.	n. a.	-
A重油計	n. a.	n. a.	-
LSC重油(S分0.5%以下)	39,718	0	+39,718
HSC重油(S分0.5%超)	0	0	+0
C重油計	39,718	0	+39,718
合計	n. a.	n. a.	-
石油製品輸出量			
ガソリン	105,136	93,108	+12,028
ナフサ	0	0	+0
ジェット燃料油	173,494	272,975	-99,481
灯油	29,956	50,329	-20,373
軽油	285,913	253,781	+32,132
LSA重油(S分0.1%以下)	22,700	83	+22,617
HSA重油(S分0.1%超)	8,408	7,132	+1,276
A重油計	31,108	7,215	+23,893
LSC重油(S分0.5%以下)	33,499	5,020	+28,479
HSC重油(S分0.5%超)	128,210	94,523	+33,687
C重油計	161,709	99,543	+62,166
合計	787,316	776,951	+10,365

単位: k l

「n. a.」は現時点でサンプル数が少ないため発表対象外

○石油製品の推定週間出荷量(内需) 全国

	2019/1/20~1/26		前週比		前年比(1/21~1/27)	
	出荷量(kl)	日量平均(kl)	%	kl	%	kl
ガソリン	805,829	115,118	-9.6	-85,707	-3.2	-26,944
ナフサ	-	-	-	-	-	-
ジェット	52,052	7,436	-28.6	-20,805	-60.9	-81,090
灯油	466,811	66,687	-18.7	-107,416	-19.2	-110,653
軽油	619,564	88,509	-15.6	-114,608	-4.3	-28,074
LSA 重油	148,085	21,155	+1.7	+2,507	+2.9	+4,236
HSA 重油	105,587	15,084	-24.9	-35,003	-21.8	-29,499
A 重油計	253,672	36,239	-11.4	-32,496	-9.1	-25,263
LSC 重油	88,682	12,669	+100.6	+44,464	-39.0	-56,657
HSC 重油	123,881	17,697	+0.3	+421	+3.6	+4,269
C 重油計	212,563	30,366	+26.8	+44,885	-19.8	-52,388
合計	2,410,491	344,356	-11.6	-316,147	-11.9	-324,412

石油連盟週報から推計 合計にナフサは含んでいない

当該週出荷=前週末製品在庫+当該週生産+当該週輸入-当該週輸出-当該週末製品在庫

 ◇弊社ウェブサイトURLは www.rim-intelligence.co.jp

◇リム価格は登録商標です。登録番号は第5387777号。

※リムレポートの転送は著作権により堅く禁じられております。購読契約者である組織以外だけでなく、同契約者の組織内の他部署、支社、支店などへの転送も出来ません。本レポートの全部もしくは一部の転載も禁じられています。著作権違反が発覚した場合、違約金が発生することがあります。本レポートに記載された情報の正確性については万全を期しておりますが、購読者が本レポートの情報をを用いて行う一切の行為に関して、リム情報開発株式会社は責任を負いません。また、天災、事変その他非常事態が発生し、または発生するおそれがあり、運営が困難となった場合、レポート発行を一時的に中断することがあります。

事業所一覧 [東京本社]

Tel:03-3552-2411, Fax:03-3552-2415

 e-mail:info@rim-intelligence.co.jp
[シンガポール支局]

Tel:(65)-6345-9894, Fax (65)-6345-9894,

 e-mail:hagimoto@rim-intelligence.co.jp
[北京支社]

Tel:(86)10-6498-0455, Fax:(86)10-6428-1725

 e-mail:guanhong@rimbj.com
[インド支局]

 Tel:(91)-98795-50717, e-mail:kamlesh@rim-intelligence.co.jp
[上海支社]

 Tel:(86)-21-5111-3575, e-mail:rim_sh@rim-intelligence.co.jp

(C) 2018 RIM INTELLIGENCE CO.